

初級日本語教育に取り入れるべきの擬音語擬態語の提案

Nguyen Thi Thanh Thuy*

ハノイ国家大学外国語大学東洋言語文化学部

受領日: 2012年10月02日, 受理日: 2012年12月25日

レジュメ. 日本語の擬音語擬態語は数が多く、実際に使われる時は話者が作り出している臨時のものも多く、外国人学習者にとっては難関の一つである。それにもかかわらず、日本語教育においては十分に重視されていないため、学習者はなかなか理解できなく、使う自信を持っていないのが現状である。本研究は多大な日常会話を収録している名大会話コーパスをデータにし、初級日本語教育に取り扱うべき擬音語擬態語として、日常会話にもっとも頻繁に出てくる擬音語擬態語を提案する。

キーワード: 擬音語擬態語、日本語教育、日常会話、名大会話コーパス、初級日本語

1.はじめに

日本語は擬音語擬態語が多く存在し、擬音語擬態語は文学作品だけではなく、日常会話においても頻繁に使われている。

三上(2007)によると、日本語教育では擬音語擬態語が積極的に指導の対象となっていないということである。それで、中・上級の教材や日常会話に頻繁に出てくる擬音語擬態語に出会うと、戸惑うことが多い。

これまで擬音語擬態語の言語学的特徴についての研究や英語・中国語・韓国語などとの対照研究が比較的が多い。一方、日本語教育に関する擬音語擬態語の研究は近年注目されつつあるものの、十分なされているとはいえない。しかも、それらの研究で扱われる例文のほとんどは新聞、雑誌、文学作品などからのデータで、実際の日常

会話に出ている擬音語擬態語のデータを扱う研究は西村(2009)を除いては見当たらない。それで、初級日本語教育で取り入れるべき擬音語擬態語として、日常会話によく出てくるものを調査する必要があると考えられる。

本研究は名大会話コーパスにある日常会話をデータにし、日常会話に頻出する擬音語擬態語を検討し、初級日本語教育に取り入れるべきの擬音語擬態語として提案する。

2.先行研究

現在、日本語教育には擬音語擬態語が体系的に取り入れられていないため、どの擬音語擬態語を優先的に導入すべきかを検討する研究がいくつかある。玉村(1989)ⁱ、三上(2007)ⁱⁱは複数の教科書や辞書、言語資料を調査し、擬音語擬態語の基本語彙選

* Tel: +81- 80 4008 3911

Email: thuybeok34@yahoo.co.jp

定を試みている。これらの研究によって日本語教育における擬音語擬態語の重要性が確認されるようになったが、いずれの研究も多くの言語資料、辞書を通して、つまり、書き言葉のデータを対象に、話し言葉はほとんど入っていない。

西村 (2009) は「BTS (Basic Transcript System) による多言語話し言葉コーパス - 日本語会話 (1, 2) 2007 年度版」を対象に、4 つの会話パターン (友人同士 NS-NS、NS-NNS、初対面 NS-NS、NS - NNSⁱⁱⁱ) に頻度が高い擬音語擬態語上位 10 語を抽出した上、日本語母語話者と学習者の擬音語擬態語の使用特徴を明らかにした。しかし、これは対話の時間とテーマに限られるため、NS と NNS の擬音語擬態語の使用特徴はある程度明らかになったが、出現する擬音語擬態語の述べ語数と異なり語数が少なく、その使われている場面が実際の使用状況をカバーできるかは疑問の余地がある。

3. 名大会話コーパス及び研究方法

3.1 名大会話コーパス及びこれをデータとした理由について

名大会話コーパスは代表者が大曾美恵子で、科学研究費基盤研究の「日本語学習辞書編纂に向けた電子化コーパス利用によるコロケーション研究」の一環として作成されたもので、2 名から 4 名の日本語母語話者による約 100 時間の雑談を収録・文字化したデータである。

会話参加者は女性が 161 人で、男性が 37 人で、複数の会話に参加している参加者もいる。年齢は 10 代から 90 代前半で、出身もほぼ日本全国で様々である。会話の時間は平均 46.5 分で、一つの会話の中で、話題がいくつか出てきて、会話の場面も様々である。

石黒(2008)は擬音語擬態語ivはジャンルの偏りがあるが、現実の生活場面に密着した知覚や感情を表すのによく使われる。そして、日常生活においては「子育て」や「料理」「天気」などの場面で擬音語擬態語がよく使われていると指摘している。

このように、日常会話に擬音語擬態語が使われる可能性が高いことがわかる。上記のことと照らし、名大会話コーパスは日本人の日常会話の実態を把握するのに適切な材料の一つだと考えられる。

3.2. 研究方法

本研究は日本人の日常会話にもっともよく使われている擬音語擬態語を検討すべく、日常会話を収録した名大会話コーパスをデータとした。それぞれの会話から日本人母語話者が使用した擬音語擬態語を抽出し、頻度に着目した量的分析と擬音語擬態語が使われている文脈 (文) に注目した質的分析を行う。

※擬音語擬態語の数え方は以下のとおりである。

例：がばがば、がぼっ、がばーっ

→異なり語数：3 語

種類：1 種類 (「がばがば」種)

頻度：3

そして、同じ語が 2 度、3 度繰り返しの場合は 1 種 2 語、3 語と数えた。

4.本研究における擬音語擬態語の判定基準

4.1 擬音語擬態語の定義・呼び方

この語彙層に関して、金田一 (1978) は以下のように定義・分類している。

【表 1】擬音語擬態語の定義・分類

分類	下位分類	例
擬音語： 外界の音を写した言葉。	擬音語： 無生物の音をあらわすもの。	とんとんドアをノック。 (作例)
	擬声語： 生物の声を表すもの。	羊がめーめーと鳴く。 (作例)
	擬態語： 音を立てないものを音によって象徴的に表す言葉。	擬態語： 無生物の状態を表すもの。 擬容語： 生物の状態を表すもの。 擬情語：人間の心の状態を表すようなもの。

このように、金田一(1978)は擬音語擬態語を 5 類 (擬音語、擬声語、擬態語、擬容語、擬情語) に分けた。これはこれまでの研究の中で最も詳しい分類方法のように考えられる。しかし、実際には上記の分類方法が困難な場合がある。

以下の例を見てみよう。

例 1：ヒップはぴっちり、ほかはだぶだぶというズボンが流行している。^v

例 2：どうも、水を飲みすぎたらしい。おなかがだぶだぶする。^{vi}

例 1 は衣類が大きすぎて、体にぴったり合わない様子を表すので「だぶだぶ」は擬態語と分類すべき例文である。これに対して、例 2 は何か容器の中に入っているかなりの量の液体が揺れ動いて出る音を表すので「だぶだぶ」は擬音語と分類すべきである。このように、一つの言葉が二つ以上の意味を表す場合に、上記の分類方法が困難な場合があることがわかる。

擬音語擬態語は現在のところ、学者や研究者によって定義・呼び方が異なり、い

まだに統一した呼び名が管見では見当たらない。

この語彙層を研究している研究者の中には音や声を表す語を擬音語・擬声語、ものの様子や状態を表す語を擬態語にし、全体を擬音語・擬態語と総称する研究者が多い。例えば、阿刀田・星野(1995)や飛田・浅田(2002)などである。また田守(1999)や小野(2007)など、表す意味によって「擬音語・擬態語」に分け、全体を外來語のオノマトペと呼ぶ研究者もいる。

本研究では、多くの研究が扱っている擬音語擬態語という呼び方を採用する。

4.2 本研究における擬音語擬態語の判断基準

先行研究の中でも対象とする擬音語擬態語の範囲は様々である。本研究では、擬音語擬態語を判定する基準として 4 つの辞典を用いた。①は浅野・金田一(1978)『擬音語擬態語辞典』、②は飛田・浅田(2002)『現代擬音語擬態語用法辞典』、③は阿刀

田 (2009) 『擬音語擬態語 - 正しい使い方がすぐわかる』で、④は小野 (2007) 『日本語擬音語擬態語辞典』である。この 4 冊のうち、2 冊以上で扱われているものを本研究の対象とした。したがって、母語話者の感覚で擬音語擬態語と認定されていないかもしれない「きちんと」「ちゃんと」、「ゆっくり」、「そろそろ」なども分析対象としている。

5. 結果と考察

5.1 日常会話によく出てくる話題

名大会話コーパスは 129 会話から構成され、一つの会話の平均時間が約 46.5 分である。長い時間の中で、会話に出てくる話題は一つだけではなく、様々な話題が登場する。研究に関する会話を除けば、他の会

話には参加者の親疎関係、会話が行われる場所が異なってもいくつかの話題が共通していることが非常に興味深い。「天気」「子育て」「体の状態」「仕事のやり方」などの話題がもっともよく観察されたので、会話参加者の年齢・親疎関係を問わず、ある一定の会話時間があれば、これは日常会話によく出てくる共通の話題といえよう。

5.2 もっとも頻出する擬音語擬態語とその頻度

名大会話コーパスの 129 会話を考察したところ、述べ語数の 2733 語の擬音語擬態語が観察され、一つの会話に平均、擬音語擬態語が 21 回出現したことがわかった。そのうち、異なり語数が 448 語で、語形も様々である。頻度の高い上位の 60 語は以下のとおりである。

【表 2】日常会話に頻出する上位 60 語の擬音語擬態語

順位	擬音語擬態語	頻度	順位	擬音語擬態語	頻度
1	ちゃんと	249	31	すっきり	10
2	びっくり	222	31	ちょん	10
3	どンドン	216	31	ぼん	10
4	そろそろ	91	31	どきどき	10
5	めちゃめちゃ	71	31	べらべら	10
6	ゆっくり	65	31	ふらふら	10
7	ばーっ	61	31	ぐるぐる	10
8	しっかり	52	38	あっさり	9
9	はっきり	50	38	がーっ	9
10	ばーっ	31	38	がっしり	9
11	ぎりぎり	29	38	がらがら	9
12	めちゃくちゃ	27	38	きちんと	9
13	ばりばり	22	38	じーっ	9
14	かーっ	21	38	すりすり	9
15	ばらばら	18	38	のんびり	9
15	びーっ	18	38	びんぼーん	9
17	さっぱり	15	38	ふ	9
17	ちょこちょこ	15	38	びったり	9
17	ぼろぼろ	15	38	ばーっ	9
20	だらだら	14	38	ばんばん	9
21	いちいち	13	51	ぐっ	8
21	ぎゅぎゅ	13	51	すっきり	8
21	むちゃくちゃ	13	51	そっくり	8

24	がんがん	12	51	ぺたぺた	8
24	ぐちゃぐちゃ	12	51	ぺらぺら	8
24	ばーっ	12	51	ぼこぼこ	8
27	さくさく	11	51	ほっ	8
27	だーっ	11	58	たっぶり	7
27	にこにこ	11	58	がりがり	7
27	びかびか	11	58	きっちり	7

頻度が同じものは同じ順位になるため、いくつかの擬声語擬態語が同じ順位となっている場合がある。

上記の 60 語のうち、23 語がともに玉村 (1989) 及び三上 (2007) のリストにも入っている。23 語は茶色で塗ってある。これは、この 23 語が日常会話においても他の言語資料 (書き言葉) においても広く使われていることを示す。

1 位お「ちゃんと」はほとんどの会話に現れ、会話参加者の年齢・親疎関係に関係なく、広く使われていることを示唆している。

2 位の「びっくり」は「びっくりする」という動詞の形で使われるが、これも「ちゃんと」と同様に、ほとんどの会話に現れる。日常会話には個人の経験を相手に話すことが多く、相手に注目を引くために面白いようなことや相手をびっくりさせるようなことがよく話題になっているため、「びっくり」がよく使われると思われる。

「お風呂に入って、さっぱりしている」「あの二人は誰がお兄さんか誰が弟かわからないぐらいそっくりしている」「すっかり忘れた」などのように、他の擬音語擬態語がそれぞれいくつかの典型的な場面で使われているがそれでも決まった場面で共通に使われるので初級日本語教育に取り入れておくと日常会話の理解やコミュニケーション能力にも貢献できるのではないかと考えられる。

6. 終わりと今後の課題

以上、初級日本語教育に取り入れるべきの擬音語擬態語を提案すべく、日常会話を収録した名大会話コーパスを考察した。

日常会話といっても、会話参加者の親疎関係・年齢・会話の行われる場所・会話の時間など、様々な条件に左右され、それによって言葉遣いや話題となっていることが異なっていく。考察した結果、研究を話題とする会話以外にはどの会話も「子育て」「天気」「仕事のやりかた」「料理」などの話題で共通していることがわかる。そして、使われている擬音語擬態語は個人によって異なるが、もっとも頻繁に出てくるのは 60 語で、その中で、玉村 (1989) と三上 (2007) が提案したリストと照らせば 23 語が共通していることも明らかになった。筆者が抽出した 60 語の擬音語擬態語は日常会話に頻繁に使われているため、初級日本語教育に取り入れるべきではないかと考えてよいだろう。これらの擬音語擬態語を習得できると、日常会話の時にも、会社の同僚と話す時などにもより自信を持ち、コミュニケーション能力の向上も期待できると考えられる。

今後は、日常会話によく出てくる共通の話題をいくつか抽出し (「子育て」「天気」「料理」「体の状態」など)、それらの話題によく出てくる擬音語擬態語を日本人に調査し、調査の結果により共通しているものを抽出し、それらの使用場面や指導法を考える。できれば、実際に授業を行い、

理解テストと応用テスト（決まった場面で日本人と会話をし、擬音語擬態語をできるだけたくさん使わせる）を行い、その結果によってまた指導法を改善し提案したいと考えている。

参考文献

【辞典・辞書】

- [1] 浅野鶴子（編）金田一春彦解説（1978）『擬音語擬態語辞典』角川書店
- [2] 飛田・浅田（2002）『現代擬音語擬態語用法辞典』東京堂出版
- [3] 阿刀田稔子，星野和子（2009）『擬音語・擬態語使い方辞典：正しい意味と用法がすぐわかる』創拓社
- [4] 小野正弘（2007）『日本語擬音語擬態語辞典』小学館
- [5] 西村由美（2009）「対話コーパスから見た日本語母語話者と学習者の擬音語擬態語使用の特徴 - 日本語教育における擬音語擬態語指導に向けての基礎的研究」『言語文化コミュニケーション』
- [6] 三上京子（2007）「日本語教材と擬音語擬態語」『日本語学』26（7）pp. 36-46 明治書院
- [7] 三上京子（2005）「日本語教育における擬音語擬態語指導の現状とその課題-日本語教育基本擬音語擬態語の選定と指導への試み-」早稲田大学大学院日本語教育研究科修士論文
- [8] 三上京子（2003）「上級教材に見られる擬音語擬態語統語的特徴の分析と指導の観点」『早稲田大学日本語教育研究』2、p. 193-209
- [9] 玉村（1989）「日本語の音象徴の特徴とその教育」『日本語教育』68号
- [10] 石黒圭（2008）「特集：おのままとぺ」『国文学』2008年10月号、学燈社
- [11] 金田一春彦（1978）「擬音語・擬態語解説」『擬音語・擬態語辞典』（浅野鶴子編）東京：角川書店

【書籍と論文】

- [1] 田守育啓・ローレンススコウラップ（1999）『擬音語擬態語：形態と意味』くろしお出版
- [2] 田守育啓（1991）『擬音語擬態語擬音・擬態語を楽しむ』岩波書店

【調査データ】名大会話コーパス

本研究の調査のデータは名大会話コーパスで、その文字化のデータは以下の URL で公開されている。

<https://dbms.ninjal.ac.jp/nuc/index.php?mode=viewnuc>.

ⁱ玉村（1989）では、国立国語研究所報告 78『日本語教育のための基本語彙調査』（1984年出版）から最重要18語と重要の42の擬音語擬態語を抽出した。

ⁱⁱ三上(2007)は数多くある日本語のオノマトペの中で、日本語教育を考える時に、どんなオノマトペを教えるべきかという問いをきっかけに、まず、中級までの学習・対象となるオノマトペがどのくらいあるか、日本語教育における基本語彙を選定した8種の文献を調査した。文献は次のとおりである。

(1)国立国語研究所(1984)『国立国語研究所報告 78 日本語教育のための基本語彙調査』（秀英出版）、(2)文化庁文化語部国語課(1983)『外国人に対する日本語教育の振興に関する報告集』（京和工業）、(3)玉村文郎(1987)「日本語教育基本 2570 語」（『日本語教師養成通信講座 日本語の語彙・意味 1.2』アルク）、(4)国際交流基金・日本国際協会編（2002）『日本語能力試験 出願基準【改訂版】』（凡人社）、(5)玉村文郎(2003)「中級用語彙-基本 4000 語」『日本語教育』116号、(6)文化庁(1990)『外国人のための基本用例辞典（第三版）』（大蔵省印刷局）、(7)専門教育出版『日本語学力テスト運営委員会』編(1998)『改定 品詞別・A~D レベル別 1万

語彙分類集』(専門教育出版)、(8)工藤真由美(1999)『児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査』(ひつじ書房)

iii NSとは英語ではNative Speakerで、母語話者のことを指し、NNSとは英語でNon-Native Speakerで、非母語話者のことを指す。

iv 石黒(2008)では擬音語擬態語のことをオノマトペと呼んでいる。

v 浅野(1978) p177

vi 浅野(1978) p177

Đề xuất một số ứng dụng về giảng dạy từ tượng thanh tượng hình tiếng Nhật cho chương trình sơ cấp

Nguyễn Thị Thanh Thủy

Khoa NN&VH Phương Đông

Trường Đại học Ngoại ngữ, Đại học Quốc gia Hà Nội

Đường Phạm Văn Đồng, Cầu Giấy, Hà Nội, Việt Nam

Từ tượng thanh tượng hình trong tiếng Nhật rất phong phú. Ngoài ra, người Nhật còn thường tạo ra những từ tượng thanh tượng hình của riêng mình mỗi khi tham thoại. Tuy nhiên, lớp từ này chưa được chú trọng đến trong chương trình giảng dạy tiếng Nhật. Chính vì vậy, học viên người nước ngoài thường gặp nhiều khó khăn khi sử dụng chúng. Trong nghiên cứu này, chúng tôi tiến hành khảo sát Meidai Dialogue Corpus- một khối liệu lớn ghi lại những cuộc nói chuyện hàng ngày của người Nhật. Mục tiêu của khảo sát là thống kê những từ tượng thanh tượng hình có tần suất sử dụng cao và đề xuất ứng dụng cho chương trình giảng dạy tiếng Nhật sơ cấp.

Từ khóa: từ tượng thanh tượng hình, giảng dạy tiếng Nhật, hội thoại hàng ngày, Meidai Dialogue Corpus, tiếng Nhật sơ cấp.